

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0118 NO77

校長 伊波喜一

大縄の 持ち手ありてぞ 大記録 陰で支える 要(かなめ)なるかな

17日、東京都教職員研修センターの伊藤孝司教授に、短縄・大縄指導をしていただいた。短縄では縄を足で止めるやり方や飛び方の具体例を、大縄では縄への入り方などを指導いただいた。これが出来ると、ダブルタッチも跳べるようになるとのことだ。その中で、心に響いた話がある。「大縄跳びの記録は、跳び手に意識が向きがちだ。確かに、跳び手に力量がないと記録は伸びない。しかし、より大事なのは回し手だ。回し手が上手いからこそ、跳び手はより多く跳ぶことが出来る」。「失敗したから回し手をさせるというのは、弱い者・力の劣るものを、皆で攻め立てるようなものである。このように、回し手を軽んずる集団からは、友達を大事にする文化は育たない」。「それとは逆に、回し手を固定せず誰もが自然に代わっていける学級には、思いやりの花が咲く」。 誰でも、陽の当たる道を歩きたい。陽の当たる舞台に上がりたい。陽の当たる役を手にとりたい。しかし、それは陰で支える人がいてこそのことである。種を植えたから花が咲く。その種を蒔く人に、光を当てる人でありたい。